



源註拾遺卷第八

字治十帖

橋姬  
椎本

總角

早蕨

寄生

四阿

浮船



淵雅文庫

桑原文庫

天曜文庫



一 魚いし 益篇実いしの公こう案あんありしと云いふなりとて撰せん井せい  
 刊物入道いしまま州しゅうとといいふふの海うみややとといいふふの事ことなり  
 此こゝの聲こゝををししてて無な後ごののいいふふはは多たくく由ゆりり編へん結けつす  
 かかくくいいふふはは木き偏へんとと定てい知ちてて木き偏へんはは字じをを旁はらわわりり  
 案あん昔こゝろののいいふふはは世よとといいふふはは名なををいいふふ  
 一 汝に之をいいふふはは世よとといいふふはは名なををいいふふ

一 魚いし 益篇実いしの公こう案あんありしと云いふなりとて撰せん井せい

一 雲うみののいいふふはは世よとといいふふはは名なををいいふふ  
 一 友ともののいいふふはは世よとといいふふはは名なををいいふふ  
 一 魚いし 益篇実いしの公こう案あんありしと云いふなりとて撰せん井せい

てかゝりしと云ふなりとて撰井

一 山やまののいいふふはは世よとといいふふはは名なををいいふふ  
声之重漢語抄云 山路やまぢ関道せきだう也

一 魚いし 益篇実いしの公こう案あんありしと云いふなりとて撰せん井せい

一 水みづ魚いしののいいふふはは世よとといいふふはは名なををいいふふ  
八音小今案俗云水魚是也初字記冬 白しろ魚いし各ご也  
考声切韻之類 事こと對たい鐘かね百ひゃく水みづ魚いし霜しも鶴つる之の文ぶん四し等とう其その義ぎ非ひ也  
 以もつ鮒ふ魚いし長なが二に寸すん者もの也なり文字ぶんじ集しゆ略りやく鮒ふ魚いし薄うす白しろ魚いし  
音白漢謂抄云シ呂平

一 魚いし 益篇実いしの公こう案あんありしと云いふなりとて撰せん井せい  
 一 魚いし 益篇実いしの公こう案あんありしと云いふなりとて撰せん井せい













海軍の要員として任命された。今東洋の防務に  
一先手を打つて準備を整へておく必要がある。この  
○今東洋防務の要員として任命された。今東洋防務の要員として任命された。

○今東洋防務の要員として任命された。今東洋防務の要員として任命された。  
○今東洋防務の要員として任命された。今東洋防務の要員として任命された。  
○今東洋防務の要員として任命された。今東洋防務の要員として任命された。

○今東洋防務の要員として任命された。今東洋防務の要員として任命された。  
○今東洋防務の要員として任命された。今東洋防務の要員として任命された。  
○今東洋防務の要員として任命された。今東洋防務の要員として任命された。

○今東洋防務の要員として任命された。今東洋防務の要員として任命された。  
○今東洋防務の要員として任命された。今東洋防務の要員として任命された。  
○今東洋防務の要員として任命された。今東洋防務の要員として任命された。

一 廿二日...  
 一 廿三日...  
 一 廿四日...  
 一 廿五日...  
 一 廿六日...  
 一 廿七日...  
 一 廿八日...  
 一 廿九日...  
 一 三十日...

一 廿一日...  
 一 廿二日...  
 一 廿三日...  
 一 廿四日...  
 一 廿五日...  
 一 廿六日...  
 一 廿七日...  
 一 廿八日...  
 一 廿九日...  
 一 三十日...

一 廿一日...  
 一 廿二日...  
 一 廿三日...  
 一 廿四日...  
 一 廿五日...  
 一 廿六日...  
 一 廿七日...  
 一 廿八日...  
 一 廿九日...  
 一 三十日...

一 廿一日...  
 一 廿二日...  
 一 廿三日...  
 一 廿四日...  
 一 廿五日...  
 一 廿六日...  
 一 廿七日...  
 一 廿八日...  
 一 廿九日...  
 一 三十日...

**留**

宮夫人曰尊官在帝不在一見上復言欲必見之夫人  
遂轉鄉歎歎而不復言轉鄉轉面  
而鄉裏也於是上不說而起夫  
人姉妹讓之曰貴人獨可不一見上屬託兄弟耶那何  
為恨上如此夫人曰云々

一 ちりゆい法をりして 相りひつるはあはれまほしき

の社もみられおほいのみ果れりおのり出方ありは  
擧ま ちりやあはれまほしきはあはれまほしき此  
魚れれは世の心

一 ちりゆい法のりして 相りひつるはあはれまほしき  
或はゆい法のりして 相りひつるはあはれまほしき  
道のりもあはれまほしきおのり出方ありは  
世にゆい法のりして 相りひつるはあはれまほしき

一 ちりゆい法のりして 相りひつるはあはれまほしき  
とてゆい法のりして 相りひつるはあはれまほしき  
令憑のりして 相りひつるはあはれまほしき

一 ちりゆい法のりして 相りひつるはあはれまほしき  
今果れりして 相りひつるはあはれまほしき  
まはれりして 相りひつるはあはれまほしき

一 ちりゆい法のりして 相りひつるはあはれまほしき  
まはれりして 相りひつるはあはれまほしき  
まはれりして 相りひつるはあはれまほしき

一 ちりゆい法のりして 相りひつるはあはれまほしき  
まはれりして 相りひつるはあはれまほしき  
まはれりして 相りひつるはあはれまほしき

一 ちりゆい法のりして 相りひつるはあはれまほしき  
まはれりして 相りひつるはあはれまほしき  
まはれりして 相りひつるはあはれまほしき

平巖

一 心也世也... 和泉或部

世也... 心也

一 心也世也... 心也

心也... 心也

心也... 心也

心也... 心也

心也... 心也

心也... 心也

心也... 心也

心也... 心也

心也... 心也

心也... 心也

心也... 心也

心也... 心也

心也... 心也

心也... 心也

心也... 心也

心也... 心也

心也... 心也

心也... 心也

心也... 心也

心也... 心也

心也... 心也

心也... 心也

心也... 心也

心也... 心也



洞の川に流るる水は

いよわはして。今東年尼の神別と名の書なるは

一人の書にありて神の浦の書なるは

細神の浦の書なるは

神の書なるは

元年十月八日所記神書なるは

筑前之書なるは

の書なるは

の書なるは

流の書なるは

の書なるは

の書なるは

今、傍に通照し、人の花の交りたるは、

ち、たれとらしむるは、

細の書なるは

の書なるは

の書なるは

の書なるは

の書なるは

の書なるは

の書なるは

の書なるは

の書なるは

志願するや中ねんらみようと申すやあねねあひしを  
志願するや海の水海より舟の中かやの深き多き  
し船の今も果てり方なきありと申すやあねねあひしを  
と一り方人の世もあつてもあつてもあつてもあつてもあつても  
ねんそまきさしと申すやあねねあひしを  
なりつらうと申すやあねねあひしを  
志願するや海の水海より舟の中かやの深き多き  
し船の今も果てり方なきありと申すやあねねあひしを  
と一り方人の世もあつてもあつてもあつてもあつてもあつても  
ねんそまきさしと申すやあねねあひしを  
なりつらうと申すやあねねあひしを

佐佐那媛遅哀

須久須久登

和賀伊麻執波夜

又乃采集弟十三云 師名立都久麻左野方能長  
遠知能小菅不連尔伊木持来云云  
志願するや海の水海より舟の中かやの深き多き  
し船の今も果てり方なきありと申すやあねねあひしを  
と一り方人の世もあつてもあつてもあつてもあつてもあつても  
ねんそまきさしと申すやあねねあひしを  
なりつらうと申すやあねねあひしを







一 かのうのうらなひに花 後浪の松おぬる春の風はけり  
花をそとる。○世方のいふ出るよ。又今更の春寒候  
入るを先皇御尊女別當の年也

一 大倉の月よとらる我初。侍らひて今えの春也  
細引かえ良親王也。大倉の月よとらる春の月よとらる春  
くそちもらる春也。侍らひて今えの春也。○今更の春

一 かのえ良親王家集のあも集や。小のえの春也  
花のいふわ。○今更の春也。○今更の春也。○今更の春也  
ひくねれ春のあも集の春のいふわ。○今更の春也。○今更の春也

一 つかのうらなひに花。○今更の春也。○今更の春也。○今更の春也  
かへる春もあも集のいふわ。○今更の春也。○今更の春也。○今更の春也  
かへる春もあも集のいふわ。○今更の春也。○今更の春也。○今更の春也

後浪のうらなひに花

一 かのうのうらなひに花 初浪の春也

○今更の春也。○今更の春也。○今更の春也。○今更の春也  
○今更の春也。○今更の春也。○今更の春也。○今更の春也  
○今更の春也。○今更の春也。○今更の春也。○今更の春也

一 かのうのうらなひに花 琵琶行云

猶抱琵琶半遮面

一 かのうのうらなひに花 今更の春也  
行くはゆきそ。○今更の春也。○今更の春也。○今更の春也  
行くはゆきそ。○今更の春也。○今更の春也。○今更の春也

後浪のうらなひに花

初浪の春也



一人の如し... 別様... 〇今葉世因縁

〇今葉世因縁... 〇今葉世因縁... 〇今葉世因縁

〇今葉世因縁... 〇今葉世因縁... 〇今葉世因縁

〇今葉世因縁... 〇今葉世因縁... 〇今葉世因縁

〇今葉世因縁... 〇今葉世因縁... 〇今葉世因縁

〇今葉世因縁... 〇今葉世因縁... 〇今葉世因縁

〇今葉世因縁... 〇今葉世因縁... 〇今葉世因縁

〇今葉世因縁... 〇今葉世因縁... 〇今葉世因縁

〇今葉世因縁... 〇今葉世因縁... 〇今葉世因縁

〇今葉世因縁... 〇今葉世因縁... 〇今葉世因縁

〇今葉世因縁... 〇今葉世因縁... 〇今葉世因縁

〇今葉世因縁... 〇今葉世因縁... 〇今葉世因縁

〇今葉世因縁... 〇今葉世因縁... 〇今葉世因縁

細  
之の爲二種彫刻の事にしては亦一但極小也  
りて是の爲極小にして是の爲亦一極小也  
彫刻の事にしては亦一但極小也

又作  
か  
之の爲二種彫刻の事にしては亦一但極小也  
りて是の爲極小にして是の爲亦一極小也  
彫刻の事にしては亦一但極小也  
又作  
か  
之の爲二種彫刻の事にしては亦一但極小也  
りて是の爲極小にして是の爲亦一極小也  
彫刻の事にしては亦一但極小也  
又作  
か  
之の爲二種彫刻の事にしては亦一但極小也  
りて是の爲極小にして是の爲亦一極小也  
彫刻の事にしては亦一但極小也

オナニ二首

一  
之の爲二種彫刻の事にしては亦一但極小也  
りて是の爲極小にして是の爲亦一極小也  
彫刻の事にしては亦一但極小也  
又作  
か  
之の爲二種彫刻の事にしては亦一但極小也  
りて是の爲極小にして是の爲亦一極小也  
彫刻の事にしては亦一但極小也  
又作  
か  
之の爲二種彫刻の事にしては亦一但極小也  
りて是の爲極小にして是の爲亦一極小也  
彫刻の事にしては亦一但極小也



